

経営比較分析表（令和3年度決算）

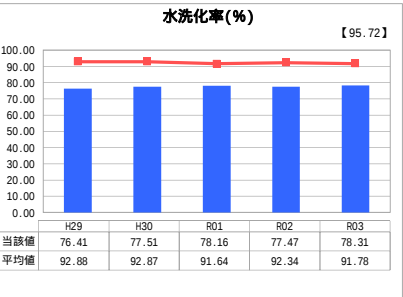
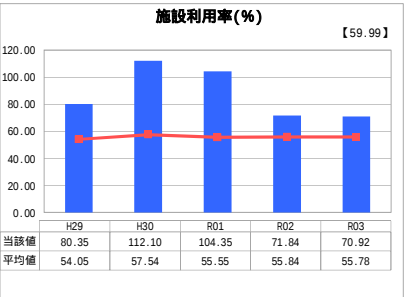
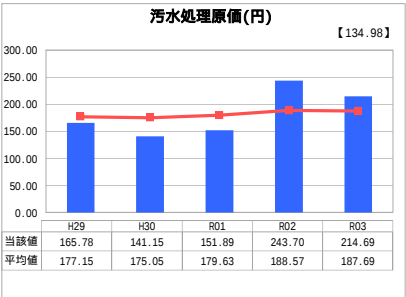
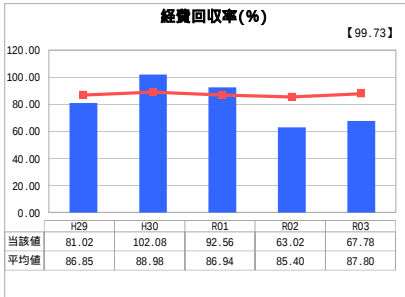
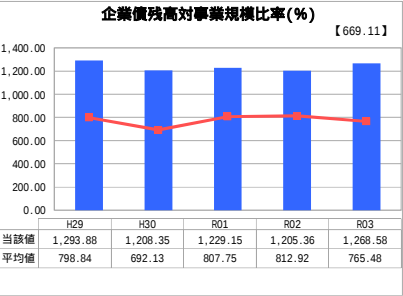
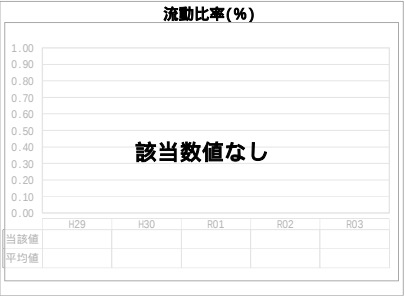
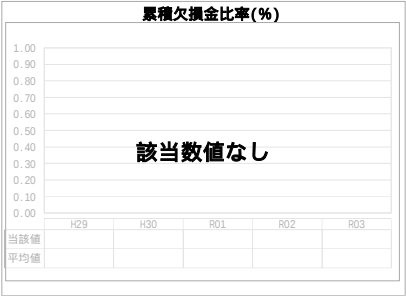
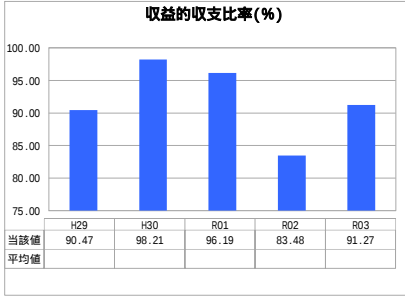
熊本県 阿蘇市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
6.90	該当数値なし	26.39	57.49	2,585

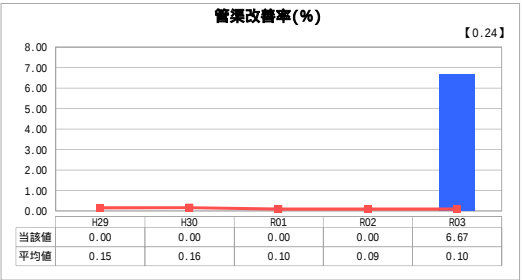
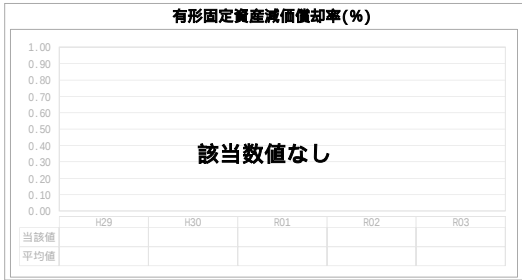
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,213	376.30	67.00
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,592	3.97	1,660.45

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率について
令和3年度については2年度よりも7.79%上昇しており、これは一般会計からの繰入金によるものである。使用料の増によるものではないため、使用料の料金見直しを行っていく必要がある。
企業債残高対事業規模比率について
管渠については未普及事業を進めながら令和8年度までに完了するよう計画している。終末処理場においては、耐震・改築工事が2年ほど遅れている。
経費回収率について
令和3年度は2年度に比べ4.76%上昇しているものの、汚水処理に係る経費を使用料以外の収入で賄っているため、使用料の料金見直しを行っていく必要がある。
汚水処理原価について
昨年度より下がっているものの、人口減少・節水対策等による年間有収水量は減っているため、接続率の向上による有収水量を増加させる取り組みを行っていく必要がある。
施設利用率について
全国の平均よりも利用率については増になっているがこれは不明水によるものであるため、管路点検調査を行い不明水対策を行っているところである。
水洗化率について
年々増加しているものの、全国平均よりも低い。使用料収入を図るため、水洗化率向上の取り組みを行っていく。

2. 老朽化の状況について

管渠改善率について
令和3年度は5km敷設した。未普及対策により令和8年度までに未普及地域の管渠新設工事を終わらせる計画である。

全体総括

人口減少に伴う利用料金の減収、処理場改築工事に伴う汚水処理費の増加が懸念されることから、今後、経営状況は厳しさを増すことが予想される。このため、経営戦略を随時見直しながら、老朽化した施設を計画的に更新し、使用料金等の見直しを行っていく。また、管渠も令和8年度までには未普及地域の整備を終わらせる。